



4月後半から5月にかけて、全校で交流する行事がたくさんありました。1年生と高学年児童・生徒の対面式はのびのび青空の下行うことが出来ましたが、全校ピクニック、防災訓練など雨天に見舞われることが多く工夫して過ごしました。気候・温度差が不安定な時期が続きますが、新緑が日増しに青さを増すように子どもたちは元気に学びを深めています。

*十日市場校舎での対面式

(1年生と6~9年生)*4月24日

4月24日月曜日の朝。新1年生の15名は担任の伊藤雅子先生、付き添いの黒沼先生とともに元気に十日市場校舎に到着しました。

まずは、9年生に導かれ、6~8年生のアーチの下をくぐってオイリュトミー室へ向かった1年生。しっかりと声で自分の名前を言っていくと、上級生はその名前をすぐに覚え、復唱。その後、上級生が「歌が響く」の合唱をプレゼントして、第一部は終了です。

第二部は、だんご山公園で行われる、恒例の「楽しい牧場」。1年生の「騎手」が6~9年生扮する「馬たち」を乗りこなすという、ひたすら1年生を楽しませるための遊びです。始めは戸惑っていた1年生でしたが、時間とともにいろいろな「馬」を乗りこなす醍醐味を知り、乗る馬を次々に取り替えて楽しそうでした。

そのあと、手つなぎ鬼をしていると、あっという間に終了予定時刻です。

最後には6~9年生全員が1年生と握手してお別れしました。

毎年のことですが、上級生の、1年生に対する優しい言葉遣いや、1年生に配慮する様子は、なんとも微笑ましい光景です。

普段は別々の校舎で生活する1年生と上級学年の子どもたち。今後も交流を深める機会ができるよう、アイデアを絞っていこうと思います。

(8年生担任 長井麻美)



学園祭準備進行中

オープンデーと同日(6月10日(土))に十日市場校舎で開催される『高学年学園祭』。中学生にあたる7~9年生が日々話し合い、準備を重ねています。

【カフェ：Sweets Travel】

今年はテーブルクロスも手作りしました。スイーツを食べて旅行気分を味わってください。

【縁日：睡蓮】

新しいゲーム、景品を準備して皆さんのお越しをお待ちしています。縁日で楽しい一時をお過ごしください。

【ダンボールワールド：新生ダボルニア帝国】

今回は女子がメンバーに加わり、景品もダンボール作品だけではなく、ペーパークラフトなど趣向を凝らしています。ポイントもクイズ形式ではなくアトラクション形式に進化しました。

【発表】

合唱、劇(「森は生きている」抜粋)に加えて、今回は合奏(管弦楽演奏)も加わりました。

【展示】

この学園の良さを知ってもらおうと発表会場の空き時間に「部活紹介」「生徒アンケート」(今までの学校生活の感想)を展示しています。ご質問にも生徒がお応えします。

準備の様子は「がくえんにっし」をご覧ください。最新情報は学園WEBサイトをご確認下さい。

児童・生徒：全校ピクニック

*保護者：校内研修*5月13日(土)

横浜シュタイナー学園一期生は複式クラスでした。15名中3名はすでに昨年高校を卒業しましたが、12名は今年の春に高校での学びを修め、新たな一步を踏み出したばかりです。

今年最初の校内研修では、そんな学園の卒業生を招いて話してもらおうということになりました。在校生保護者が日頃から抱えている疑問や不安に対し、シュタイナー教育を学んだ当事者たちに率直に答えてもらおう、という企画です。

当日は一期生の福地啓くん、安藤耕平くん、二期生小林光くんの3名が都合をつけ、早朝から来てくれました。「僕たち3人、掛け合いで話を進めていきますから。」との言葉通り、1時間強もほとんど司会なしで話を進めてくれました。ある保護者がおっしゃっていましたが、まさに「ライブ」と呼ぶに相応しい、わくわくした時間でした。

一方、全校ピクニックは初の雨天プログラムとなり、どうなることかと教員たちははらはらしていたのですが、こちらの方は7年生～9年生が工夫を凝らし、1年生～6年生の子どもたちを教室で100分間遊ばせ、楽しませるといふ役割を見事に果たしたそうで、教員たちはいたく感動したそうです。

卒業生、高学年生のどちらにも言えることは「自分が置かれた環境で最善を尽くそうとする意欲と人を楽しませるユーモアのセンス」だと思いました。

今回ほど学園の子どもたちの豊かな成長を実感する校内研修・全校ピクニックはなかったかもしれません。早くも「シリーズ第二弾」を期待する声が高まっているようです。

(教員会 長井麻美)

校内研修に寄せて ～広報特派員ルポ～

私たちは大きな、とてつもなく大きな流れの中に生きている。どこへ向かうともしれない強く大きな流れ。怒濤のようなその潮流の中で、この教育は一つの清流を守ろうとしている。シュタイナー教育について、私はずっとそんなイメージを持っている。

子ども時代の数年間をこの清らかな美しい水の中で過ごした後、稚魚たちは支流へ本流へ、そしていつか大海へと泳ぎだしていくのだ。シュタイナー学校という清流から泳ぎだしていったかつての子どもたち。この世界で培った健やかな精神や身体は、今は何を感じ、何を見ているのだろう。9年間は、その後の世界を泳ぎ切る体力を育てるのに十分な時間だったといえるのだろうか？

この春、横浜シュタイナー学園保護者である私たちに用意された校内研修は、まさしくそんな疑問に答えるものだった。「卒業生たちは今どんな若者になっているか」と題し、この学園を巣立った一期・二期生たちに、自分たちの過去・現在そして未来についての想いや考えを率直な言葉で語ってもらうというものだ。学内では『伝説』の一期生、『最強の8人』と謳われる二期生たち(!)。どんな若者になっているのだろう。

当日は一期生2人と二期生1人、計3人の青年たちが会場に来てくれた。興味津々の保護者たちを前に初めは緊張気味だった彼らも、フリートークで自由に話し出すうちに、自分たちのトークに自ら笑い、聴衆を沸かせた。緊張がほぐれ、自然に笑いが生まれ、どんどん場が和んでゆく。人前に在ることに慣れているのは、小さなころから発表や劇遊びをふんだんに取り入れるこの教育の成果。そして、「笑い」がひとつの重要な突破口であることを全員が身体でわかっているようだ。

質疑応答の際、一人の保護者が尋ねた。そのユーモアの感覚は一体どこからくるのですか??と。音楽に興味があるという一番年嵩の青年は言った。

『笑ってもらいたい、って常に思っている。昔は能動的(!)に笑いを取りに行きたかった、でも高校に入ってそれができなかった。あるとき、人から振られた一言で会場が沸いた。それでボクの路線はコレだ、これで行こうって思った。受動的に、でもイザというときには実はスゴいの持ってるぜ!って感じで(笑)。』

会場は大爆笑。総勢 10 名ほどのこじんまりと温かなクラス、彼らの言うところの「コンパクト」な世界を出て、彼は多種多様な生徒が集まるマンモス私立高校に進んでいた。笑いを生むものはゆとり、だろうか。緊張した状況をユーモアで切り抜ける、というのは実はとても高度で柔軟な「返し技」だ。外の世界を換える、内側の力。力を抜いてくれているようで、彼はその本質をきちんと理解している。空を見て話す彼の周りの空気は終始ほんわりと温かかった。

昨年、シュタイナー学校高等部を卒業した一期生の 1 人は現在進路を模索中だ。卒業後、スイスのゲーテアヌムに赴き世界中から集ってきた若者たちとともに数週間の講義を受けて、思い切りインスパイアされてきたようだ。落ち着いたバリトンの声で堂々と話す。大人顔負けの風格だ。

『世の中の人たちはなんだかかわからず流れに乗っているけれど、僕はそんな流れには乗りたくない。というより乗ってやるもんか、と思っている。』

この年齢にして「選ばない」という選択肢も選べる、ということを手で知っているのだ。本人は「老成している」と人に云われる(笑)というけれど、確かにこの達観ぶり。大物である。

『流れに乗るよりも、Big wave を起こしてやりたかって話しているんです。自分たちで。』



一昨年横浜を卒業し、公立高校に進んだ二期生は今年いよいよ大学受験の年だ。国立大学の推薦入試に挑戦してみたい、という。

『公立の高校にも「すごい」と思う人たちはいる。いろいろな人たちに出会えたと自分の世界を拡げてくれた。』

『僕は、流れてみてもいい。行けるところに行ってみよう、と思う。どうにかなる。』とも。

彼らの中にはそれぞれの確かな羅針盤がある。自分のうちに確かな針路を持つ人にとっては、そもそも流れなど問題ではないのかもしれない。どんな波に揺られようと、正しい方向を見据えてさえすれば、身体はいつか、おのずからそちらに流れてゆくものだ。彼らはそうして針路をそちらに向けながら、時には流れの外に身を置くことも、身を委ねることも、すでに術として知っているようなのだ。

この学校の、この教育の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたい、と、教師や親たちは尽力をしてきた。でも、彼らの言葉以上のことを一体誰が伝えられるだろう?とふと思う。

実際にこの教育を滋養として育ってきた本人たちの言葉。それは真実だ。

『この学校はただの知識ではなく、学ぶための動機や意志、のようなものを教えてくれた。だから僕はこれから何処にいても学ぶことができる。』

これ以上のことを誰が「教育」に望むだろう?

(4 年生保護者 広報の会 石倉義子)

* 学園 WEB サイトで連載中のルポルタージュ「自由への曳航」では、第 2 話から第 4 話まで、卒業生たち取材しています。最新 3 話のみ公開ですので、どうぞお見逃しなく。』



クラスだより 3年生

カリキュラム「くらしと仕事」より

こどもの国でのまきば体験 4月24日(月)

「9歳の危機」と呼ばれる成長の大きな節目にさしかかる3年生の子どもたちの内面は、個人差はあれど、ぼわーんとした夢見の状態から徐々に目覚めの状態へと変化していきます。具体的には、大人の言うことに疑いなく従っていたあの子が「なんで、やらなきゃいけないの?」とちょっと不満げに聞いてきたり、一人で考え事をしているように見えたり、「お母さんはこの前は違うことを言った!」と大人の矛盾を指摘してきたりといろいろな現れ方をします。また、お風呂の中で息を止める限界に挑戦したり、どのくらい痛みを我慢できるか友だちとつねりあったりなど、肉体的にも、「何やっているの? やめなさい!」と注意したくなるようなことを以前より目にするようになるかもしれません。呼吸が苦しいとか頭が痛いなどと訴えてくることもあり得ます。この時期、子どもたちは意識するかしないかに関わらず、「自分」という「個」に目覚めます。

天上界に半身を入れたまま私たちのもとへ生まれてきた子どもたちは、9歳前後を境に地上界への敷居をまたいで地球市民になるべく私たちの仲間入りをしてきます。ですから3年生のお話は天地創造や樂園追放で始まる「旧約聖書」が年間を通して語られます。絶対神であり唯一の神であるヤハウェは、一見人間にとって残酷と思えるようなつらいことももたらしますが、長い目で見ると人間を見守り愛しています。人生を有意義に生きていくために、孤独を感じるがあっても大いなるものにいつも見守られ愛されているという確固たる信頼を私たちは子どもたちに根付かせたいのです。

地上に下ろされたアダムとエヴァ(イヴ)は自分たちだけの力で働かなければいけなくなります。しかし、地上で働いて生きることで、天上界では得ることができなかった「自由(自分で感じ・考え・決め・善きことを行うこと)」を人間は得るのです。人間の先祖が行った(狩猟・採取)・農耕・牧畜・家づくり・職人の仕事などを3年生も年間の学習テーマとして学びます。

その中の一つである牧畜の体験は毎年4~5月に青葉区のこどもの国で体験させてもらっています。内容は乳しぼり・バター作り・羊や牛へのエサやり・仔牛への哺乳見学・牛糞の堆肥場見学・羊の毛刈り見学などです。今年は4月24日(月)にこどもの国へ行きました。その報告をさせていただきます。

集合はこどもの国正面入り口に開門時刻の9時半、十日市場駅前9:05発のバスで行った私は9時23分に現地到着でしたが、なんとほぼ全員が既に来ていて「先生、遅ーい!」と言われてしまいました。

お天気も上々、欠席もなく19人の子どもたちと引率の三品先生、見学したい保護者3名と妹1人はまずはミルクプラントに行きバター作りです。

5人一組で4グループに分かれた子どもたちは2リットルのペットボトルにこどもの国の乳牛から採った乳で作っているノンホモ牛乳(置いておくと脂肪が分離してくる牛乳)を500ミリリットル入れ、フタをして交代で激しく振りました。縦にゆすり牛乳がペットボトルの内側に激しくぶつかるように振ります。とても疲れるので20回ほど振ったら交代というリズムでした。15分も振り続けると内側に何やらクリーム色の固まりが見え始め、それがバターです。バターを分離した後のスキムミルクもさっぱりとして甘みがあり美味しくいただきました。バターはクラッカーにつけ、少し塩を振って味見しました。市販のものより水分が多いのであっさりした味でした。乳製品を食べてはいけない子たちは試食はしませんでした。バター作りの体験をしてほしかったので試食はおまけと考えています。この体験は7~8年生の化学にも通じるものです。



次は牛舎に移動して牛の説明を聞いた後、乳搾り体験でした。子どもたちは2列に分かれて、台の上に載った1頭の牛の両側から飼育員さんに教えてもらいながら乳を搾ります。利き手の親指と人差し指で15センチメートルくらいある牛の乳首の根元をおさえた後、中指・薬指・小指の順で乳を外に絞り出すように握っていくとビュービューとバケツの中に乳が搾り出されます。牛のためにも人のためにも乳搾りの前と後には石鹸で手を洗いアルコール消毒をしました。

エサやり体験は竹のへらの上に紙コップに入った草を固めた固形飼料を3~4粒乗せて牛の前に差し出します。牛は長い舌でペローンとそれを口に運んで食べます。本当は草を食べている牛たちですが、いろいろな面から安全性が取り沙汰される昨今では、子どものエサやり体験は草を手でやることはできません。エサやり体験は牛や羊を近くから見る体験ができればいいかと妥協しました。

その後は仔牛への哺乳を見学し、牛舎の裏にある牛糞から堆肥を作っている場所を見学しました。牛糞は発酵させると土のようになり素晴らしい肥料になります。牛は本当に無駄にする部分が何もないと言ってよいくらい人のために生きてくれている動物です。その堆肥を校庭の畑のために少しいただきました。

最後は羊の毛をバリカンで刈るところを見学しました。担当の方は手際よく羊の急所を上手に抑えて右の後ろ足からお腹と背中、右前足、頭、左の後ろ足からお腹と背中、左前足の順に15分ほどで1頭の羊を羊毛が繋がった状態（フリース）で刈りあげました。これは芸術とも言えると思いました。刈り終わった時には皆思わず拍手をしていました。羊毛も手仕事で使いたかったので少しいただきました。

こうして3年生のまきば体験は午前中3時間くらいで終わり、牧場の方々にお礼を言って昼食となりました。ちょっとした小山のある広場でお弁当を食べ、その後は小山に登ってから急勾配を転がり下りたり、勢いよくそこを駆け下りてきたり、大きな風船のようなものの上で跳びはねたりと皆よく遊んでいました。1年生に弟や妹がいる何人かの保護者は弟妹のお迎え後に昼食から合流しました。皆が遊ぶ様子を見ながら（まきば体験よりも遊びの方が印象に残ってしまうかもしれないなあ。）という心配を若干しましたが、とにかく一人の欠席もなく全員が春の1日を楽しく過ごせたのだから、あとは授業中の会話やノート作業の中で肝心な部分を定着させていけばいいと思い直しました。

今回のこどもの国体験は集合/解散場所を現地にし、保護者に送り迎えをお願いするとともに保護者の見学もよしとしました。保護者の皆様のご協力に感謝しています。ありがとうございました。（3年生担任 神田昌実）



講座延期のお知らせ

インフォメーション

多面的シュタイナー考察 その1「医学」 延期について

5月28日(日)に開催予定だった連続講座「多面的シュタイナー考察 その1『医学』」は、講師である、山本忍先生のお怪我により、日程未定の延期にさせていただくことになりました。お申込みいただいた方、楽しみにして下さっていた皆さま、申し訳ありません。

現段階では日程は未定ですが、今年度の開催を検討します。

また、お申し込みいただいた方には個別にご連絡させていただいておりますが、お問合せ等は事務局までお願いします。

山本先生の一日も早い回復をお祈り申し上げます。(勉強会グループ)

2018 年度入学説明会

日時：6月24日(土)[A]

7月1日(土)[B]

9月16日(土)[A]

9月23日(土)[B]

[A]

9月30日(土)[B]

時間：[A] 14:00~16:00

[B] 10:00~12:30

場所：[A] 霧が丘校舎

[B]十日市場校舎

参加費：無料

※A・Bに参加された方のみ入学願書(1000円)で配付します。

※A・Bともご両親でのご参加が原則となります。

※詳細はチラシ・学園 WEB サイトをご確認の上事前にお申込ください。

連続講座：第2回目体験授業 低学年編「かず 心と体を動かして」

日にち：6月18日(日)

時間：13:30~15:30

講師：横山義宏(2年生担任)

会場：霧が丘校舎

参加費：1,500円(会員割引有)

保育：あり(要事前予約)

※詳細はチラシ・学園 WEB サイトでご確認の上事前にお申込ください。

建築講座

「見ること、聞くこと、話すこと
~建築を通して」

日にち：7月11日(火) ほか

時間：10:00~12:00

会場：霧が丘校舎

料金：2,000円(要予約)

詳細は学園 WEB サイトでご確認ください

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セーラー店)当座06130702

茶話会

日にち：6月14日(木) ほか

時間：10:00~12:00

会場：霧が丘校舎

料金：無料(要予約)

詳細は学園 WEB サイトでご確認ください

◆YSG お知らせメール配信中

公開講座やイベント開催など、学園のさまざまなトピックをいち早くメールでお知らせします。

ご希望の方は学園 WEB サイトよりご登録ください。

オープンデイ/学園祭

6月10日(土)

10:00~15:00

《オープンデイ：霧が丘校舎》

- ・保護者による人形劇「たんつく坊」
- ・ワークショップ
- ・お母さんカフェ
- ・お父さん屋台
- ・手づくり品の小さなお店
- ・星の金貨(スクールショップ)
- ・保育「こどものへや」
- ・大人のための「体験を交えた授業紹介」
- ・教員による個別教育相談
- ・教育展示

《学園祭：十日市場校舎》

- ・劇と音楽発表
合唱と器楽演奏
- ・劇「森は生きている」より抜粋
- ・縁日
- ・ダンボールワールド
- ・カフェ

最新情報は学園 WEB サイトをご覧ください。

星の金貨

オープンデイでは、人気の木製ロウソク消しや虹染めブレイクロス、ハーブティ、木の車、木の器などそろえてお待ちしています。

どうぞ、星の金貨にお立ち寄りください。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第101号

2017年5月30日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします